

(別添3)

【三次市】
校務DX計画

1 校務DX化の現状及び成果

本市では、令和2年度の1人1台端末の導入に合わせて、市立小中学校の全児童生徒及び教職員に対して、Google for Educationを利用するためのアカウントを発行・配付し、クラウド環境下での学習や校務が行える環境を整備してきた。

また、令和4年度には、学校から保護者への連絡配信や保護者から学校への欠席連絡などが行える無料の連絡ツールを導入し、学校保護者間の連絡のデジタル化を行った。更に、令和5年度には、令和6年度の本格運用に向けて、校務の標準化と効率化を通じた教育の質の向上を目的に、統合型校務支援システムを導入するなど、校務DX化に向けた取り組みを行ってきた。

これらの取組の結果、令和6年度9月の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の実施結果では、例えば「児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡」、「学校から保護者へ発信するお便り・配布物のクラウド化」等に関して、肯定的に回答（完全にデジタル化していると一部している（半分以上）の合算値）している学校の割合が、全国平均を上回っており、これまでアナログで行ってきた校務のデジタル化が進展している。

また、一人一台端末の家庭での利用について、市内の全校が、臨時休業等の非常時における持ち帰りも含め、「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしている」と回答しており、児童生徒の学びを止めない体制を整えている。

2 校務DX化の課題

(1) 業務の在り方の抜本的な見直し

令和6年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検結果では、クラウドサービスを用いた次の校務において、業務のデジタル化が進んでいないといった課題がみられた。

【児童生徒に対して】

「アンケート等の実施・集計」

【保護者に対して】

「資料提出」，「アンケート等の実施・集計」，「日程調整」

【日々の校務】

「職員会議等におけるペーパーレス化」，「調査・アンケート等の実施・集計」

(2) 統合型校務支援システムの在り方について

令和6年度に本格導入した統合型校務支援システムについては、情報の一元管理及び共有

といったメリットがあるものの、システム自体の操作への慣れやこれまで各学校で構築してきたシステムとの違いによる教職員の負担軽減が課題である。

3 校務DX化の今後の計画

2の課題に基づき、以下のとおり校務DX化に向けた検討を進める。

(1) クラウドサービス活用の拡充

- ・Google for Educationをはじめとするクラウドサービスを活用した「情報収集」や「共有」「調整」など、非同期のコミュニケーション及び協働を推進する。
- ・様々なクラウドサービスによる業務の効率化に向けた実践例について、各種研修の機会を通して発信し、クラウド活用をベースとした教職員の業務改善モデルを示す。

(2) 統合型校務支援システムの在り方について

- ・令和6年度に本格導入した統合型校務支援システムの在り方については、「導入期」「活用期」と段階的に校務の標準化と効率化を通じた教育の質の向上を目指す。
- ・「導入期」では、これまでのシステムとの差による教職員の負担感軽減のために、各種ガイダンスを充実させるとともに、市内代表管理職等による意見交換の機会を設けて、現在の環境に対する課題やシステム改善に向けた要望等を把握し、より活用しやすい環境を整える。
- ・「活用期」では、更なる利便性の向上を目指して、各学校間における校務支援システムを導入したことによるメリットや効果的な活用方法の共有などに努める。
- ・一方、統合型校務支援システムの在り方については、全ての校務をシステム化することではないため、非システムとのバランスについて考慮する。